

昭和 50 年度研究プロジェクトについて

社会保障研究所

プロジェクトの基調

基調テーマとして、「福祉社会成立の基本的要件に関する研究」を掲げる。福祉社会への移行が時代の課題として提唱されてきたが、日本の社会はどのような要件をそなえたとき福祉社会たる内実をそなえることができるか、最近における経済的・社会的な条件の変動はこれとどのように関わり合っているか、以下の諸研究会はこの基調的な課題をそれぞれの視点から究明していくことを意図している。

経済分析研究会

経済学の立場から社会保障の展開過程を分析し、社会保障政策の性格やその効果判断などについて、理論的実証的研究を行う。

1 社会保障の再分配効果と、その要因分析に関する研究

昨年度は、インフレーションとの関連で再分配効果を分析したが、本年度は、とくに次の2点を中心にして、ひきつづき研究を行う。第1は、ライフ・サイクルと所得分布の関連を明らかにし、再分配政策のあり方を検討する。第2は、所得階層を、経済的、社会的、人口動態的要因に即して再分類し、それぞれのグループにおける再分配効果と、各要因の構成変化の双方から、再分配効果の要因分析を行う。

2 社会的支出の国際比較的研究

前年度は、医療、教育、福祉等への消費支出に関し、直接・間接に公的制度を通して行われるものを国際比較的に実証分析した。本年度は、さらに住宅等を加えて対象項目を拡大し、対象年次も 1970 年代の最近時まで拡げるとともに、変化のパターンを時系列的、横断面的に明らかにすることによって、社会的支出の変動法則を追求していく。

個別研究

- ・所得分布と社会変動の関連に関する時系的分析
- ・婦人問題と社会保障
- ・社会保障と個人貯蓄との関連についての研究

統計調査研究会

社会保障水準を測定するために基礎的な統計資料を整備し、わが国社会保障の充足状況の把握に資する。

共同研究

1 社会保障水準統計資料の体系的整備

府県別等の地域別統計を利用して、社会保障水準に関する諸指標と社会・経済諸指標との関連を体系的に把握できるよう諸統計の整備をしていく。

2 家族周期段階別にみた世帯の生活実態調査結果の解析

さきに静岡県掛川市において実施した「中高年者生活総合調査」の結果を利用して、中高年者層の生活構造の特徴を、世帯、家計、健康、栄養状態の各分野から総合的に分析していくことを昨年度にひきつづき行う。

個別研究

- ・中高年者の生活水準
- ・家族周期別にみた家計収支

社会分析研究会

社会学の立場から社会保障の形成、発展の基盤を究明するとともに、社会保障の政策、運営、組織及び社会的効果などについて、理論的実証的研究を行う。

共同研究

1 現代社会における福祉組織の諸問題

わが国の保健、福祉はかつてないほどの発展と変化がみられる。このなかで保健、福祉分野における組織の在り方が改めて問題となっているが、昨年度はとくに社会福祉の組織について検討を行ってきた。本年度はこれをひきつづき発展させ、保健と社会福祉の関連を組織論の立場から研究すると同時に、福祉社会建設の条件の一つとなる福祉組織の在り方を追求する。

2 ソーシャル・アドミニストレーションに関する理論的基礎研究

ソーシャル・アドミニストレーション（社会行政あるいは社会福祉管理）は、わが国の社会福祉を考える場合に、有効な研究の分野と方法になるものと思われる。こ

のために一昨年度はじめてこの研究を取り上げ、昨年度はとくにイギリスにおけるソーシャル・アドミニストレーション理論の形成過程について研究を行ってきた。本年度はこの研究をひきつづき発展させる一方、欧米諸国の研究動向を追求し、わが国の社会福祉行政（計画）、運営等に資することを期する。

個別研究

- ・社会福祉の供給問題に関する研究
- ・福祉政策の評価研究の手法について
- ・福祉サービスの供給体制に関する実証研究

経済・社会研究会

福祉社会の成立要件に関する研究

現代の先進国の社会は「議会民主主義——産業主義——福祉政策」といった複合的社会の形をとっている。この複合的社会が福祉社会でありうるためには、これら主要な構成要素の結び付きの仕方について満さなくてはならない要件があると考えられる。この問題の解明に役立つと思われる研究論文を、代表的な経済学・社会学などの学術誌のなかから選んで、これらに検討を加えていきたい。

制度研究会

社会保障および関連分野における国際動向と各国制度の特質を明らかにするため、比較研究と歴史的研究を行う。

共同研究

- 1 社会保障の長期発展パターンに関する国際比較研究

各国社会保障制度の特質とそれを規定する要因を歴史的な形成・発展過程をたどることによって明らかにしつつ、発展パターンの類型化と制度の有効性を比較・評価することが本研究のねらいである。昨年度は、アメリカ、イギリス、フランス、西ドイツにおける重要な社会保障形成・改革の動きをとらえて歴史的研究を試みた。本年度は、さらにそれを進めるとともに、各国システムの有効性の比較・評価方法についても検討する。その場合、所得保障に重点を置く。

2 発展途上国の貧困問題と社会政策に関する研究

一昨年度来、発展途上国が当面している社会問題の性質と広がり明らかにし、それらの問題に対する対応のしかたを社会立法と社会政策の面でとらえることを目的として若干のヒアリングを重ねてきた。本年度は、社会問題のなかでも大量貧困の問題を中心として取り上げ、アジアおよびラテン・アメリカ地域の諸国を対象にして、各社会政策領域および隣接領域の専門的立場から研究を進める。

個別研究

- ・インドの貧困問題と社会政策
- ・各国社会保障制度の類型的研究
- ・アメリカ社会保障制度の歴史的研究

政策研究会

社会保障のいろいろな分野におけるトピックスを取り上げて、報告や討論を行う。また、前年度と同様、政策判断の根拠などについて、効果と財源の諸問題に対する検討をとくに配慮し、社会計画に利用できる資料の整備を行う。